

第 89 回 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 議事録

日時：2023 年 8 月 18 日（金） 18：00～20：00

場所：Web 開催

出席者：

大橋 弘 委員長（東京大学 副学長 大学院経済学研究科 教授）
秋元 圭吾 委員（（公財）地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）
安藤 至大 委員（日本大学 経済学部 教授）
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院 工学系研究科 教授）
馬場 旬平 委員（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授）
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）

オブザーバー：

池田 克巳 氏（㈱エネット 取締役 東日本本部長）
市村 健 氏（エナジープールジャパン㈱ 代表取締役社長 兼 CEO）
岸 栄一郎 氏（東京電力パワーグリッド㈱ 系統運用部長）
藤岡 道成 氏（関西電力送配電㈱ 理事 工務部担当、系統運用部担当）
野村 京哉 氏（電源開発㈱ 取締役 常務執行役員）
鍋島 学 氏（電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課長）
中山 真 氏（資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギーシステム課 課長補佐）
中富 大輔 氏（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力基盤整備課 電力供給室長）

配布資料：

（資料）議事次第

（資料 1）持続的需要変動対応の必要供給予備力について

議題1：持続的需要変動対応の必要供給予備力について

・事務局から資料1により説明を行った後、議論を行った。

〔確認事項〕

・必要供給予備力は引き続き2%、分析期間については至近過去10ヶ年を基本とし、今後も引き続きデータ分析を実施する。

〔主な議論〕

（秋元委員）分析を丁寧に行っていただき感謝する。ご提案の通り、持続的需要変動対応分の必要供給予備力を2%とすることでよいと考え、過去10年の分析を基本としていくことで賛成する。もちろ

ん1年しか足していないので、あまりずれることはないとの確認自体もでき、よく分かったが、若干動きもあるため、今後どうなっていくのかということは注視しながら、この方針で進めていきたい。

(小宮山委員) まとめのスライドにある通り、私も持続的需要変動対応分の必要供給予備力は、分析を踏まえて2%で設計することに賛同させていただく。また、最後のほう、次数に関して丁寧に分析いただき感謝する。それらも踏まえて23ページに記載の各次数の分析結果を拝見すると、基本的にC成分は周期的変動を有する性質があるため2次がよいとの方針でこれまでも分析してきた中、今回最終的にS成分、T成分に関しても2次がよいとのことで客観的に分析をいただいたので、いずれも2次がよいというご提案の通りでよいと考える。また、仮にS成分、T成分のいずれかで1次をとった場合でも、C成分の結果に関して与える影響というのは比較的小さいように見えたため、ロバストな結果が出ていると認識した。そうした総合的結果を拝見しても2%とすることが妥当ではないかと数字上でも認識した。

(馬場委員) 私も特に異論があるわけではなく、丁寧にまとめていただき感謝する。結果としても妥当かと考える。ただ、次数の話はT成分、C成分、S成分で次数の意味しているところが同じではない気がする。例えばS成分だと1次というのはただの移動平均でしかないのに対して、その移動平均のトレンドをとるのが2次という意味合いだと考える。また、C成分というのは1次の場合は1次の差分方程式で決まるような系に、ノイズのような成分をプラスしているのに対して、2次というのは2次で動くような系の成分にノイズのようなものをプラスしている感じに見える。C成分は周期的な成分と考えると、2次というのが妥当と考える。その他のところも細かく分析、説明していただいた通り、成分それぞれの意味合いは違うのかも知れないが、2次でやっていただき、その出てきた結果としての2%というのは比較的説明もつくかと考える。先程、小宮山委員も仰っていた通り、色々な結果から考えた妥当な数値ではないかと考え、異論はない。

(大橋委員長) 今回、新しい需要データが入ったので持続的需要変動対応分についても改めて試算をしていただいた。事務局には大変丁寧な作業をしていただいたということで多くの委員の方から感謝の言葉もあった。10年、11年で、若干数字の上振れの程度は違うにしても、概ね昨年同様、2%という形で整理することに関して異論はなかったと認識する。今回は10年、11年を見ていただいたが、今後は10年間を基本として見ていくことでいかがかということに対して特段の異論はなかったと認識した。今回はこの形で認めていただくことでよいと考えるが、事務局においては、引き続き継続的にデータを収拾する中で計算については注視をしていくということで、今後しっかり進めていきたい。

(大山理事長) 本日もご議論いただき感謝する。大橋委員長から話のあったように、議題1件のみということで珍しく早く終わった。質問等はそれほどなかったわけだが、結論的にはこれまでと大きな変化はないということで皆さんに認めていただいたと認識している。安定供給のためにこういった地道な努力を重ねているということをご理解いただけていると認識している。今後ともご指導いただきたく、宜しくお願いする。

以上